

三年勤め学ばんより三年師を選ぶべし

愛媛大学副学長・大学院医学系研究科教授 今村 健志



で勉強をするよりも、短期間でも良いからよいから優れた指導者について勉強をするほうが得られるものが大きいという意味だ。

「三年勤め学ばんより三年師を選ぶべし」という諺がある。三年かけて独学で勉強するより、三年かけて師匠を探したほうが得られるものが大きいという意味だ。同じような意味の諺に「千日の勤学より一日の学匠（千日の勤学より一時の名匠）」があり、これは、千日という長い年月をかけて独学

と。一方、実際に経験した人や事を成し遂げた人が語る話や教える今、まさにこの諺が言わんとしていることの重要性を感じる。実際に、私の生き様を振り返って見ると、師を求めながら歩んできた人生と言える。特に、「誰か

ら学ぶか？」にこだわってきた結果、さまざまな分野の多才な師を得てきた。整形外科の師である酒匂崇元鹿児島大学教授、留学先のスウェーデンで基礎研究のイロハを教えてくださった宮園浩平現東京大学教授とヘルデン現ノーベル財団理事長など、素晴らしい師匠との出会いが、今の自分を支えていると言っても過言ではない。

愛媛大学に赴任して12年が過ぎて還暦を過ぎた私は、師となる年齢や立場に達しているかもしれないが、いまだに師を探し求めている。

心に残るひと言